

令和2年度 榴岡図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 令和3年2月19日(金) 13時30分～15時
- 2 出席者 ご利用者 : 3名
学校関係者 : 1名
仙台市生涯学習支援センター : 1名
仙台駅東まちづくり協議会 : 1名
東口ガイドボランティア 宮城野さんぽみち : 1名
仙台市歴史民俗資料館 : 1名
榴岡図書館 : 榴岡図書館長
他3名
- 3 内容
 1. 開会
 2. 挨拶 榴岡図書館長
 3. 自己紹介
 4. 令和2年度 自主事業取組み
 5. 意見交換
 6. 閉会

4 榴岡図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

(1) 榴岡図書館の事業へのご意見・ご要望

○東口まちづくり協議会との連携について

- ・以前図書館と連携し、まち歩きも実施していたことがある。地域の団体との交流は必要だと思う。どうかたちでやっていきたいか、お互いに聞きながら進めていきたい。コロナ禍で人数制限はあるが、終息したら人数を増やしていきたい。

○みやぎのさんぽみちとの連携について

- ・まち歩きの連携を始めて4～5年になる。毎年いくつかコースを用意した中から選んでもらい、関連する資料を集めてもらった。また新しいコースを考えているので、来年度も連携したい。
- また、コースを考えるにあたって資料収集等でメンバーがお世話になっている。今後ともお願いしたい。

【榴岡図書館から】

今回古地図を見ながら参加者と一緒にコースを歩いたが、普段とは違う景色が見えた。参加者からも古地図の所蔵について問い合わせを受けた。今後も連携させていただきたい。また、参加者が巡りたい場所があれば協議していきたい。

○仙台市歴史民俗資料館との連携事業について

- ・毎年企画展示の内容をダイジェスト形式で講演している。資料館に中々足が向かない利用者にも活動を紹介できたのでありがたい。また、関連資料を会場に展示してもらったので、テーマに沿った図書館の利用、連携ができたと思う。

短時間(30分程度)で施設(資料館)の紹介をしながら、「図書館にもこんな資料がある」と促せるような新しい形の講座も考えている。

【榴岡図書館から】

学芸員の方からの説明は臨場感がある。資料館で個別にも対応いただけるのか。

【歴史民俗資料館】

職員が外出していなければ対応できる。事前に予約も必要なく、団体のみや人数制限は特に設けていないので気軽に問い合わせしてほしい。

○榴岡小学校との連携について(ブックトーク)

- ・榴岡小学校は図書室でも列をなして本を借りるくらい本好きの児童が多い。ブックトークは生の魅力があるので今後も連携してほしい。

地域の団体に読み聞かせをお願いしていたが、コロナ禍ということもあり動画を作ってもらった。給食時や外遊びができない時に活用している。このようなかたちは新しいスタイルとして考えていかなければならない。

○生涯学習支援センターとの連携について

- ・生涯学習支援センターの和室を図書館のおはなし会用に貸出している。5階には若い年齢層(親子連れなど)があまり来館しなかったので活用してもらえると嬉しい。
- ・図書館が実施していた製本講座を、生涯学習支援センターとの連携事業として何かできないか。

(2) 意見交換(図書館サービス全般へのご意見・ご要望)

①今年度の榴岡図書館の運営に関する評価

○利用者

- ・子どもが榴岡小学校に通っている。4年生なのでブックトークをしてもらい、すごく喜んでいて。小学校で読み聞かせのボランティアをしていたが、コロナ禍で実施できていない。そんな中でブックトークで紹介してもらった本がとても新鮮だったようだ。
- ・子どもが一人で行ける場所はとても少ないが、図書館は子どもが一人で気軽に行ける貴重な場所。榴岡図書館だけではなく、仙台市図書館全体で子どもにひらいている図書館であってほしい。
- ・榴岡図書館はせっかく地域に密着している図書館なので、「いつでも来ていいよ」の雰囲気やサービスを大事にしてほしい。またイベントなども積極的に実施してほしい。

【榴岡図書館から】

市内で一番蔵書も少なく、施設としても一番小さな図書館で声も響きやすいが、親子で読み聞かせしている声や、子どもが少し話をしていても利用している大人たちはあたたかい目で見ているのでありがたい。

○利用者

- ・子どもがたくさん利用しているが、カウンターの目の前が児童書のコーナーで安心して利用できる雰囲気だと思う。
- ・児童書のコーナーに「エプロンをしている人に何でも話しかけてね！」の表示をしてはどうか。
- ・大人向け（中学生以上）のおはなし会を実施してはどうか。落語の絵本や懐かしい本、手遊びなど地域の方がホッとするおはなし会を実施してはどうか。

【榴岡図書館から】

自主事業を計画する時期にさしあたり、検討していく。

○利用者

- ・自分の子ども（30代）が2歳の時から通っている。他館を利用した時、とても機械的な対応だと感じたが、榴岡は子どもに対して暖かく対応してくれるのが印象的だった。この雰囲気は30年前から全く変わっていない。館内で子どもの声がしても孫を見ているような感覚なので、少し騒がしくてもうるさいと思ったことはない。この雰囲気は特別だと思う。ずっと続けて欲しい。小さい子に静かにする事を教えるのも必要だが、大人がニコニコ見守る雰囲気であって欲しい。
- ・公園でたまたま声をかけた子どものお母さんが、転勤してきたばかりでとても不安だと聞いたので榴岡図書館を薦めた。

○利用者

- ・わらべうたの講座に参加した際、引っ越してきたばかりの親子が参加していた。おはなし会よりわらべ歌の方が参加しやすいのかもしれない。実施回数を増やしてみてはどうか。

【榴岡図書館から】

図書館はコロナ禍ということもあり、環境が変わってきている。電子書籍等も取り入れるようになってきた。変えるべきものと変わってはいけないものはあると思う。今の雰囲気は利用者アンケートからも好評をいただいているので、変えずに運営していきたいと思う。

○利用者

- ・本が汚い（古い）ときがある。棚から手に取ろうと思ったら汚かったので戻したことがある。買い替え等はできないのか。
- ・本の寄贈は難しいのか。

【榴岡図書館から】

寄贈については、全く受け付けないことはない。狭い図書館でもあるので、せっかく申し出を受けても活かしきれないところがある。また、当館だけでは所蔵するか判断ができないので、市民図書館に問い合わせからになる。一度相談していただければありがたい。

汚損本や古い本の買い替えは、絶版でなければ買い替えが可能なので申し出いただければ検討する。タイミングよく寄贈が来れば対応する。

図書館の資料は市民の財産なので、できるだけきれいに利用していただけるようマナーアップの啓発も積極的に行っていきたい。

○利用者

- ・単行本にあらずじ（本の帯）を一緒に装備してほしい。以前他の利用者がスタッフの方に「こんな内容の本が読みたい」と本を紹介してもらっていた。聞ける人はいいが、一人でじっくり選びたい人もいると思う。
- ・榴岡図書館のスタッフは人が変わっても聞きやすい雰囲気のでいてくれるので、とてもありがたい。

○仙台市歴史民俗資料館

- ・専門の方、長く勤めていただける方を養成してほしい。本のプロは書店にもいると思うが、こういう本を探していると伝えれば案内してもらえそうなレファレンス業務に長けた人材を是非養成してほしい。

○仙台市生涯学習支援センター

- ・同じパルシティ内でも生涯学習支援センターの利用人数より、図書館の利用は約2倍ある。また榴岡地区は人口（子ども）が増えていることから、児童書は充実させてほしい。
- ・1階の案内に休館のお知らせを出しても入ってくる利用者がある。良いお知らせの方法を模索してほしい。（Twitterの活用など）

②その他ご意見

○地域連携について（みやぎのさんぽみち）

- ・榴岡小学校3年生を対象にまち歩きを行っているが、歴史民俗資料館でも子どもたちを受け入れて地域として協力している。

板橋区に地域密着型のプロレス団体がある。キャラクターや選手なども商店街の方から募集をかけている。東板橋図書館がこの団体にトショカーンという選手名で参加している。プロレスのコスチュームのまま読み聞かせを行ったりしているようだ。

徳泉寺の住職さんはキャラクターデザインが得意なので相談してみてもいいかもしれない。図書館自体の広報にもなると思う。